

ハイブリッドデザイン教育論

Hybrid Education of Design

河原林桂一郎（静岡文化芸術大学）

1. はじめに

デザイン教育界が抱えているデザイン領域の変化への対応という問題を考えてみるとデザイン人材育成の今日的課題として「デザイナー教育領域の拡大」という実態とその将来への展望を論じることが重要と思である。デザインを専攻する学生が現実にデザインという職種を希望して就職しようとしても少数しか実現できないのが実情であり、残る多くは企画、営業、開発、品質管理など多岐にわたる職種でデザインの知識や技能を活かした仕事を選ばざるを得ないという事実がある。本考察ではデザイン領域の変化とデザイナー領域の拡大を視点に将来の方向を論じることとする。

2. 亜デザイン領域の拡大

亜デザイン領域とは、従来はデザインの対象とされていなかった分野であり、いわばデザインの周辺やデザインを実現させるための領域といえる。亜デザイン領域の拡大は、いわゆるデザイン領域拡大論がニーズの積み上げで出てきたのではなく結果的に拡大してきたといえることが多いのに対し、デザインの有効性が構造不況といわれた90年代以降に中小企業が顧客ニーズを先取りし問題解決を図る中で認知されてきたという側面が大きい。それは結果的に大企業の体力が弱まりそれを補完する形で中小企業が大企業のデザイン活動の前段階、後段階をソリューション提案することにより効果を果たしてきている。

3. デザイナー領域の拡大とハイブリッド教育の必要性

デザイン業界の需給のインバランスを質的に変換させるにはデザイナー領域の拡大や亜デザイン領域拡大が有効である。2003年度の(財)日本産業デザイン振興会の「次世代デザイン人材育成」ビジョンの中でもデザイナーのニーズは今後10年で現在の5倍規模の86万人に拡大するという予測が出されている。

造形と造形表現力中心のデザイン教育は依然根強く行われている。今後、デザイナーはアイデアを生み出す役目からアイデアのビジネスとしての表現(視角化)と実現が問われ、しかもその実現のスピードが生命線となりつつある。つまりビジネスとの関わりあいにより重要

な役目となっている。このことはデザイン教育がより実践的であればよいということには必ずしも繋がらない。

デザイン教育の現場でデザイン提案をビジネスに繋げる力とそれを具体化する力を養うにはハイブリッド(混成の)教育が必要となる。ハイブリッド教育とはデザインのコアとなるスキルである造形力をベースに価値を生み出すソリューションをデザインだけでなくその周辺の領域を駆使して生み出す能力を育成する教育である。デザイン領域の変化の前にデザイナー領域を拡大することが重要であることに気づかせることに意味がある。デザイナーという職能や領域の変化と拡大は、デザインする対象や成果領域が変化していくのに対応すればよいということではない。デザイナー領域そのものを拡大することから教育を進めなければならない。それはいわばデザイナーがもはやデザイナーでなくなり、前述の企画、営業、開発、品質管理などの職種に積極的に進出していくことである。このための人材育成としてハイブリッドデザイン教育が有効であると考えられる。

4. まとめ

日本のモノづくりは背後に迫るアジア工業国との差別化を図る戦略が望まれており、その決め手の一つとしてデザインが注目されている。亜デザイン領域をモノづくりの熟成で捉え、産学が連携したハイブリッドデザイン教育を構築し、この動きに応えていくことが必要である。それはデザインの生み出す価値そのもののデザインを再構築することでもある。

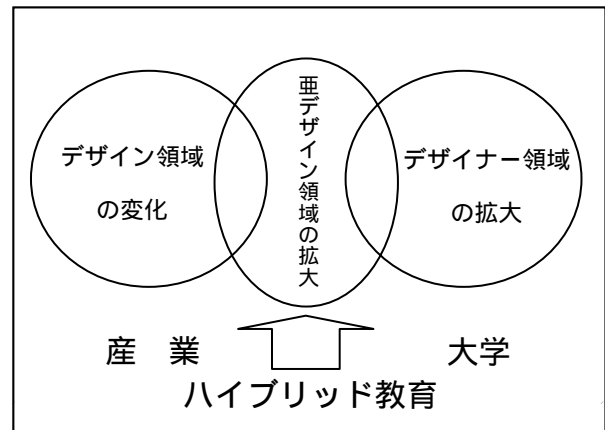


図1 ハイブリッド教育の構図